



コミュニケーション意欲を育てるかかわりーことばの育ちの基礎ー

子どもたちのコミュニケーションの育ちを考えると、どんなことを大切にされていますか。ことばを言わせようと急かしたり、まねさせようとして、子どもが話すことを控えてしまったり、嫌がるような素振りをみせた経験はありませんか。

ここでは、普段の生活や遊びの中でも取り入れられる、かかわりのコツを紹介します。

反応的にかかわることを意識してみよう

子どもたちは、自分の発信を受け止めてくれる大人のことを、よく意識しています。

大人はまず**子どもの発信（動きや発声、言葉）**をキャッチし、かかわるようにしてみよう。“もっと声を出してみよう、話してみよう”といった意欲や伝わったという満足感につながります。

子どもの様子をよく観察してみよう

子どもの発信をキャッチするためには、静かに観察することがポイントです。

何を感じている？ 見ている？ 聞いている？ 何をしようとしている？

子どもがおもしろい、楽しい気持ちのときは、発信が増えます。かかわりのチャンスです。

生活や遊びの中で取り入れてみましょう

意識しすぎると、つい力みすぎて、不自然なコミュニケーションになりがちです。

普段の生活の中で子どもの動きや、遊びに言葉を添えるイメージではじめてみてください。

<短い、簡単な言葉から。動きや身振り、指さしも大切なコミュニケーションです。>

ことばかけのコツ（インリアル・アプローチより）

子どもの動きをまねる、子どもの声をまねる

子どもの行動や気持ちを代わりに言う、大人も自分の行動や気持ちを話す

まちがいはさりげなく言い直し、さりげなく正す

ことばの意味を拡げて話す

会話のモデルになる

ーもっと詳しく知りたい方へー

ことばを育むかかわり方はたくさんありますが、一つに、インリアル・アプローチという方法があります。今回紹介した内容も、インリアル・アプローチを参考にしています。

センターの療育でも、さまざまな場面で所員も学生も意識しています。ぜひ日々の生活で、取り入れてみてください。

□参考□

中川信子「1・2・3歳ことばの遅い子ーことばを育てる暮らしの中のヒント」ぶどう社

竹田契一・里見恵子「インリアル・アプローチー子どもの豊かなコミュニケーションを築く」日本文化科学社